# フィリア・レター

～真の友人からの手紙～

発行所：中部ろうさい病院
〒455-8530
名古屋市港区港明 1-10-6
TEL 052-652-5511
FAX 052-653-3533
http://www.chubuh.rofuku.go.jp/

## 当院の救急外来の現状

救急部・一般内科部長　丸 井　伸 行

中部ろうさい病院では平成13年より夜間・休日に加えて日勤帯の救急患者を受けつけています。平成18年度には地域災害拠点病院の指定を受け、これにより地震などの災害時は地域の拠点病院として活動する義務を負っています。

この間、平成10年には救急車搬送数が年間約2,000件であったのが、平成14年に3,000件を越し、以降は3,500件前後で推移しております。救急車で搬送される方とご自分で救急外来に受診される方をあわせて、おおよそ入院の３割にあたる方は救急外来での診療を受けておられます。

当院におきましては、循環器系（急性心筋梗塞）や脳神経系（脳卒中）の救急疾患はもとより、可能な限り「いつの時間にも」、「どのような症例にも」対応することを心がけております。このため現在日勤帯は救急部スタッフ、研修医と各科バックアップ体制をとっており、夜間・休日は８名前後の医師による当直体制ならびに各科当番医によるバックアップを行っています。いずれの場合におきましても、臨床研修病院として研修医によって診療を開始いたします。加えて、救急外来ではご自分で来院される方（歩ける方もしくは車いす利用の方など）と救急車搬送される方は入り口が異なり、その上、診療は原則重症者優先となりますので、場合により長くお待たせすることがあります。救急外来の特殊性でもありますので、なにとぞご理解いただくようお願いいたします。

救急外来においては、緊急を要する病状か否かをまず判断した上で、専門医の治療の必要性を検討しております。したがって、専門医の治療をはじめから希望される方は、緊急性がなければ午前中の各科外来へお越しいただくことをお勧めします。このため受診手続きにつきましては科により予約が必要な場合があります。詳細な案内をさせていただきますので各科の外来に問い合わせ下さい。

最後になりますが、かかりつけの先生がある方は、可能であれば紹介状をご持参いただければ幸いです。かかりつけの先生には必ず問い合わせを行っております。普段の飲み薬の「お薬手帳」などを持参していただくと診療がよりスムーズに運びますのでよろしくお願いいたします。

救急外来スタッフは「地域医療の窓口」としての業務を担うことを常に心がけており、今後とも整備を進めていく方針です。なにとぞご支援のほどよろしくお願いいたします。

今月号のお知らせ

1 当院の救急外来の現状
……救急部・一般内科部長　丸井　伸行
2 新体制の糖尿病・内分泌内科について
……糖尿病・内分泌内科部長　中島　英太郎
3 なごやか検診（骨密度検診）を受けましょう
……放射線科　宮本　宏美
4 「DMAT」ってご存知ですか？
……救急看護認定看護師　酒井　麻希子
4 子どもの手術もおまかせ下さい
……手術看護認定看護師　米村　雅美
5 第４回白鳥・市民健康セミナーをおえて
……整形外科部長　伊藤　圭吾
6 研修センターだより
6 編集後記
6 当院の理念・当院の基本方針

医師

# 新体制の糖尿病・内分泌内科について

糖尿病・内分泌内科部長　中 島　英太郎

中部ろうさい病院の桜は、今年は例年になく早く散ってしまいましたが、私たち糖尿病内分泌内科には新しい風（風邪？）が吹き始めています。長年当科の発展を支えて頂いていた佐野副院長先生が退職され、私、中島が後任の第一部長を拝命いたしました。今後諸先輩方が築き上げたこの糖尿病・内分泌内科、糖尿病センターをさらに発展させていきたいと考えております。昨年の入院統計によりますと「糖尿病」で当科入院された患者さんは、371名でしたが、これは全国12位の数となりました。これも地域の皆様の暖かいご支援の賜と大変感謝いたしております。

新体制は、私以下、今峰ルイ副部長、小内裕、草間実、河合真理子、湊口（渡辺）槙子各医師のスタッフ６名および後期研修医での体制となります。外来は、上記スタッフに加え、今まで通り堀田饒名誉院長、河村孝彦副院長、金井彰夫健康診断部部長そして田中千愛非常勤医師により診療させて頂きます。

当センターで治療継続中の患者さんは現在約3,500名でありますが、元々昭和46年に専門外来として開設され、昭和62年より糖尿病センターとなりました。糖尿病の診断・治療・合併症管理について、単に血糖コントロールを行うだけでなく、患者さんの教育と療養指導を重視し、「患者さんの自己管理を目指して、患者さんに寄り添った医療を」をモットーに、患者さん個々の問題点に合わせた治療を目指しています。糖尿病療養チームでの患者さん指導には、特に日本糖尿病協会が積極的に推進しているカンバセーションマップTMを積極的に取り入れ、週一回開催しています。

入院は、「１～２週間の糖尿病治療、血糖コントロール教育パス入院」に加えて、「インスリン自己注射導入入院」、「連続血糖測定(CGM)パス入院」などのパスコースを開設し、患者さまのニーズに細かく対応しています。（２泊３日コースは運用中止とさせて頂きました）

持続的インスリン注入ポンプ（CSII）や連続血糖測定器（CGM）などの最先端治療法も積極的に取り入れ、この地域の糖尿病患者さんが日本でも最新最善の治療を受けることができるよう、医療技術の進歩に積極的に対応しています。

以上新体制と当科現状のご報告をさせて頂きましたが、地域の皆さんには今後とも是非ご支援を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

※カンバセーションマップ™

カンバセーションマップ™は、すごろくのような「会話のための地図」を使いながら患者さん同士のグループでの対話を通して、患者さんの治療意欲を高める事を目的とした、世界共通に使用されている新しい糖尿病の勉強ツールです。当院ではトレーニングを受けた協会認定ファシリテーター（進行役）が週一回の運営を行っておりますので是非、患者の皆さんに参加して頂きたいと思います。現在年一回のファシリテーター養成講習会も開催しています。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さんに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発刊しています。

技師

# なごやか検診（骨密度検診）を受けましょう

診療放射線技師　宮本　宏美

放射線科では、名古屋市が行っているなごやか検診を当日受付の予約なしで行っています。

検査機器は、最新鋭を設置し、DXA法による骨密度測定を行い、骨粗しょう症の診断を行っております。この骨密度測定装置は、骨折が発生しやすい腰椎部、大腿骨部の骨密度を直接測定可能な装置です。検査は、約10～15分以内で行なえ、検査台に寝るだけで、痛みもありません。

**骨密度とは**

骨は、20代から30代にかけてピークとなりますが、年齢とともに減少し、80歳くらいになると、若い時に比べて男性で約70％、女性は約60％の骨密度となってしまうと言われています。特に女性は、閉経を境として急激に、骨密度の減少がみられます。

骨粗しょう症の診断基準

| 骨密度値 | 当院の結果 | |
|---|---|---|
| YAMの80％以上 | 正常 | 緑色の範囲 |
| YAMの70％以上～80％未満 | 骨量減少 | 黄色の範囲 |
| YAMの70％未満 | 骨粗しょう症 | 赤色の範囲 |

YAM：若年成人平均値（20～44歳）

骨密度値がYAMの70％以上でも、低骨量が原因で軽微な外力によって発生した非外傷性骨折（脆弱骨折）を有する場合は骨粗しょう症と診断します。

当院での骨密度測定検査は、午前８時30分～11時30分、13時30分～15時30分に行っています。予約をされると、少ない待ち時間で検査が行えます。

検査に際し注意点がありますので、希望される方は、放射線科までお問い合わせ下さい。

中部労災病院　放射線科
（052）652 - 9141　　内線3100

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。

認定看護師

# 「DMAT」ってご存知ですか？

救急看護認定看護師　酒井　麻希子

当院は、愛知県災害拠点病院（地域災害拠点病院）に指定されています。災害拠点病院は、被災地にあっては主に重症者を受け入れ、必要に応じて被災地外病院へ搬送する役割を担っています。平成24年度、当院は、愛知DMAT指定医療機関に認定されました。

さて、みなさんは、「DMAT」をご存知でしょうか。災害の急性期に活動できるよう、トレーニングを受けた災害派遣医療チームのことで、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって、「DMAT」と呼ばれています。平成23年の東日本大震災では全国から383隊、合計1,852名のDMAT隊員が任務にあたりました。

全国の災害拠点病院などの医療チーム（医師、看護師、業務調整員）が数日間の集中トレーニングを受け、試験に合格するとDMAT隊員に認定されます。昨年、私を含む5人がこの研修を受けました。研修では、災害直後からけがや具合の悪い人を救出し治療を行う現場での活動、重傷者を航空機や救急車で県外の災害拠点病院に搬送する訓練、被災地にある病院を支援する活動等を実践しました。

これからは「DMAT」として活動できるようさらに訓練に参加するとともに、院内での災害訓練や災害教育等で「DMAT」を活用していただけるよう、さらに活動を続けていきたいと思います。当院では、毎年、秋に災害訓練を行っています。ぜひ、皆さま当院の災害訓練の見学に一度お越しください。

# 子どもの手術もおまかせ下さい

手術看護認定看護師　米村　雅美

みなさん「プレパレーション」という言葉をご存じでしょうか？「プレパレーション」とは「心の準備」のことを言います。子どもが医療を受ける時、その「理由」よりも「何が起こるか」を子どもが分かる方法で説明し、子どもが感じるさまざまな不安や恐怖心を予防・緩和することを目的としています。大人でも手術はとても不安なものです。子どもはその何倍もの恐怖心を抱きます。それを最小限にするために、私たちは「手術を受ける子どものためのプレパレーション」を行っています。手術室に入る時に少しでも楽しく、興味を持って入れるように環境を整えたり、手術を乗り越えられるように「頑張ったねメダル」を作成したり、頑張れたごとにシールのプレゼントをしたりと様々な工夫をしています。「手術室って、怖い所じゃなかったよ」「ぼく（わたし）、頑張れたよ」とこれまでに手術を受けてきた子どもたちや保護者の方々にも好評を頂いています。これからも子どもが笑顔になれる手術室を目指して、病棟・手術室の看護師は一丸となって取り組んでいきます。子どもの手術も私たちにおまかせ下さい。

医師

# 第4回白鳥・市民健康セミナーをおえて

整形外科部長　伊藤　圭吾

平成25年3月20日、名古屋国際会議場にて第4回白鳥・市民健康セミナー『骨粗鬆症医療の最前線』が整形外科を中心に開催されました。小雨の降る中、約460名の方にお越しいただき、空席もないほどの大盛況の上で終わることができました。ご参加いただいた方々、ありがとうございました。

加藤院長代理より、NHKのクイズ面白ゼミナールの司会の鈴木健二のオープニングの決まり文句である「“知るは楽しみなり”と申しまして、知識をたくさん持つことは人生を楽しくしてくれるものでございます。」をご紹介され、「生きていることは知ることだ。適切な情報には利点もあるが、欠点もある。本日はこれをお伝えしたい。」と、加藤先生らしい“熱い”冒頭あいさつにて会が始まりました。

山口副部長が座長のもと3名の演者に御講演頂きました。最初に『骨粗鬆症による脊椎骨折の治療法ー手術療法を中心にー』をテーマに湯川部長がお話されました。潰れた背骨にセメントを注入して固める手術であるBKP(Balloon kyphoplasty)の紹介をされました。傷は小さく、手術時間は短く、出血もごく少量で患者さんの負担が少ない手術です。会場からの質問に対しては、関西人らしいユーモアを交えた返答をされておりました。

次に『大腿骨頚部骨折の治療法』を岡部長がお話されました。お年寄りが尻もちをつかれるとなる足の付け根の骨折です。金属性のネジ・板などで骨をつなぐ骨接合術と、骨折した大腿骨の付け根の部分に機械をいれる人工骨頭挿入術の手術を紹介されました。転倒予防には下肢筋力増強がよく、スクワット・片脚立ちなどを紹介されました。

続いて、寺島副部長から『変形性膝関節症の外科的治療ー人工関節置換術ー』のお話がありました。ビデオを使って、悪くなった膝の軟骨を切除し、機械で置き換える手術であることを説明されました。また手術前と手術後の歩行状態の改善も見せていただきました。会場からは軟骨を減らさないためにはどうすればよいのかという御質問がありました。「自分のように太らないこと」だそうです。（先生、そんなに太ってないですよ。）

最後に加藤院長代理の座長のもと、名古屋大学整形外科石黒教授から『ロコモティブシンドローム　運動と健康のひみつ』のお話がありました。ユーモアたっぷりでお話をされ、何度も会場に笑いが生じておりました。骨を強くするための食事のアドバイスや、健康寿命を延ばすための運動療法の大切さを教えていただきました。『治療は予防に勝てない』と締めくくられました。

予防しきれなかった病気に対する手術方法の紹介に始まり、最後は予防療法の大切さについての説明があり、とても充実した2時間半だったと思います。今後も、このような会を催したいと思っております。新院長代理の下、現代医学でコンセンサスの得られている情報を正確にお届けできたらと職員一同がんばっていきます。

# 研修センター通信

今年も12名の初期臨床研修医が採用され、医師としてのスタートを切りました。４月１日～３日の３日間、臨床研修センターでは、オリエンテーションが行われました。このオリエンテーションでは、医師としての基本の心構えや医療安全についての考え方、実際の院内のシステムを、各部署からの説明や講義、実習を通して、初めての医療現場に出るための直前研修をします。

当院は臨床研修指定病院に指定されており、初期臨床研修医も上級医の監督・指導のもと、診療に参加しております。どうぞご理解とご協力をお願い致します。

～ 新研修医へのインタビュー
『オリエンテーションが終わって』～

意識して知識や技術を身につけて行き、さらに患者さんへの思いやりの気持ちを、変わることなく、忘れることなく、全て３つとも、しっかり兼ね備えていきたいと思います。（井上）

まだ研修１年目で、右も左もわからないような状態ですが、やさしい先生・先輩方に助けていただきながら、これから仕事を一生懸命覚えて頑張って行きたいと思います。よろしくお願いします。（山口）

## ～～ 編 集 後 記 ～～

新しい春を迎え、中部ろうさい病院も新しい体制になりました。加藤院長代理以下新副院長、新看護部長、新事務局長が着任されての体制がスタートしました。しかし、このフィリアレターで患者さんたちに当院の現状を情報発信していく姿勢は変わっていません。

さて本誌では、丸井救急部部長より「当院救急外来の現状」というレポートがあります。「時間外に受診された方から、専門医を求められると困ってしまう」という点が印象的でした。ぜひご一読をお勧めします。

また糖尿病センターの新体制について、なごやか検診（骨密度検診）のすすめ、災害派遣チーム（DMAT、ディーマットと呼んでいます）、お子様の手術に関して、市民セミナーの開催報告など盛りだくさんの内容です。

特に中高年の方は将来の骨折予防のために、骨密度検診をお勧めします。

今回は、通院中の患者さんだけでなく、職員一同にも役に立つ内容の号となりました。
今後の編集に関しまして、ぜひご意見をたまわりたく存じます。　（M.A.）

## 当 院 の 理 念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

## 当院の基本方針

- 医療の質の向上と安全管理の徹底
- 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供